

社 会
(地 図)

(3) 社会(地図)

観 点	着 眼 点
<p>1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫</p>	<p>(1) 社会的な見方・考え方を働かせながら、学習の問題を追究・解決する学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、必要な情報を調べ、まとめる技能を身につけるための資料としての工夫 ・47都道府県の名称と位置及びその概要、世界の主な大陸と海洋の名称と位置を身に付けることができる工夫</p> <p>(2) 社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動をより活性化させるための資料としての工夫</p> <p>(3) コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行う工夫・地図を活用することにより、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養う工夫</p> <p>(4) 学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見出したりすることや、さらに学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることができるような工夫・児童の発達段階を考慮し、児童の考えが深まるよう様々な見解を提示するような工夫</p> <p>(5) 身近な地域及び国土の遺跡や文化財、生産物などについての調査活動を取り入れるための工夫</p> <p>(6) 地図への親しみをもち、問題解決のための資料として効果的に活用する技能や意欲を育成する工夫</p> <p>(7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫</p>
<p>2 使用上の便宜</p>	<p>(1) 内容の配列、分量についての特徴</p> <p>(2) 判型、分冊等、造本上の特徴</p> <p>(3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫</p> <p>(4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮</p>

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
地 図	新しい地図帳	2 東書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 47 都道府県の名義と位置を理解する学習を行う際、学習課題解決のための資料として工夫されている。

都道府県の様子を捉える学習については、都道府県の区分を載せるとともに、特徴の捉え方を例示している。また、各都道府県について適宜拡大図を設け、より様子が捉えやすくなるよう工夫されている。(P5～6、P17～54)

各都道府県の統計には、国宝・重要文化財の数や伝統工芸品についても取り上げており、理解を深めることができるよう工夫されている。(P83～84)

世界における我が国の国土の位置、構成、領土の範囲を理解するために、日本の領土・領海の全体を示した地図を載せ、日本の端の経度や緯度などを示すとともに、尖閣諸島や竹島を「日本固有の領土」として写真をつけて説明している。また、日本の国土の統計を載せることで、全体像を数字の面からも把握できるよう工夫されている。(P15～16)

日本の水産業、農業、工業について、水揚げされる魚や農産物、工業生産物等を、イラストを多用して読み取りやすくなるよう工夫されている。(P71～72)

我が国の歴史上の主な事象について学習を行う際、学習課題解決のための資料として活用できるように、出来事の経緯を示した年表とともに参照するページが示されており、歴史上の事象とその位置について関連付けて調べられるよう工夫されている。また、主な時代における日本と世界のかかわりを船の航路等を示すことで視覚的に捉えることができるよう工夫されている。(P75～78)

- 日本の自然災害について、台風や豪雨、地震や大雪といった日本列島全体の災害地図を載せ、地形や気候などとの関係から災害の起きる要因や防災対策について考えられるよう工夫されている。(P97-99)

ハザードマップの例とその読み取り方を載せ、自分の地域における学習の手がかりとなるよう工夫されている。(P 99)

- Dマークのあるページでは、アドレスや二次元コードからWEBページにアクセスすることで、デジタルコンテンツを利用して地図の基礎知識や地図帳の使い方を学び、社会的事象を捉える見方・考え方を養う工夫がされている。(P5、P11、P13、P16、P56、P69、P71、P73、P83、P85、P96、P100)

日本は8 地方区分、世界は州ごとに、地図の縮尺を統一し、各地域の地理的理解を深めるとともに、位置関係や地域相互の結びつきを調べたり比較をしたりするなど、多面的な学習ができるよう工夫されている。

- 京都及び奈良、東京の市街地地図を載せ、修学旅行や校外学習、家族旅行でも使えるよう工夫されている。また、地図上にイラストや写真を効果的に配置することで、さらに調べてみたいという意欲がもてるよう工夫されている。(P35～36、P47～49)

- 国内の世界遺産(自然・文化)の写真を載せたり、昔の国名がついている食べ物や、行事などがイラストで紹介されたりするなどして、地域の伝統や文化に根ざした資源に目を向け、保護・活用につながるよう工夫されている。(P79-80)

- 「まちを上からながめてみよう」「真上から見ると地図になるよ」「市をみわたしてみよう」など、地図ができあがるまでの様子が書かれている。また、地図帳の使い方について、キャラクターや吹き出しを活用し、説明されている。(P7～P14)

冒頭の世界地図と日本地図を「地図のぼうげんに出発！」という形で載せ、国や地域の特徴を表したイラストが描かれており、児童の興味を引き、地図を見ることへの動機付けになっている。(P1~4)

- 外国語活動、外国語科との関連を図ることができるよう、世界地図にはすべての国名に英語表記が付記されている。また、アフリカの動物やヨーロッパの料理の写真や説明を載せ、地図とともに学べるよう工夫されている。(P61~64)

算数科との関連を図ることができるよう、地図のページには縮尺を示すスケールバーが配され、実際の距離を求める計算をすることができるようになっている。

家庭科との関連を図ることができるよう、統計に加え、各都道府県のおもな郷土料理や農水産物を取り上げている。(P83~84)

国語科や音楽科、道徳科などに関連する人物のイラストや記念館の場所などを載せている。

2 使用上の便宜

- 世界と日本のイラストマップに始まり、日本列島を見渡す地図、日本の地方と都市地図、世界地図、世界の州ごとの地図、資料図、統計資料、索引と統計的に配列され、扱いやすいように工夫されている。
 - A4判、4年間の使用に耐えるよう製本されている。中央部は十分に開き誌面が見やすくなるように工夫されている。折り込みページの折り目部分にニスひき加工がされ、破れにくくなるよう強化されている。
 - 統計資料、索引に十分なページをとり、行間を空けて見やすくされている。(P83~96)
 - 色のみによる文字や図形の判別を避け、形を変えて区別されている。また、海底部の青色、都市部の黄色、平地の緑色から高地の茶色までメリハリのある色調になっており、反射がきつすぎない用紙が用いられ、目が疲れないう配慮されている。(P75~78、P83~85)
- 地図中の文字や記号は大きく、丸ゴシック系である。特に都道府県名は赤の太字に白い縁取りをして、児童が学習しやすいよう配慮されている。

3 その他

- 巻末には、日本と世界の統計・グラフを設け、様々な学習場面と関連づけられるようにしている。
- 索引の都道府県名・都道府県庁所在地名・国名を赤色文字にして、見つけやすくしている。
- 地名は全てに、その他の文章には、第3学年以上の漢字にルビがつけられている。また、図や写真の説明文などは文節改行にして、読みやすいように配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
地 図	楽しく学ぶ 小学生の地図帳	46 帝国

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 47 都道府県の名義と位置を理解する学習を行う際、学習課題解決のための資料として、日本の様子について、広く見わたす地図で概略を示している。また、鉄道や高速道路にしぼって交通網を示すことにより、わかりやすく他地域とのつながりを表している。(P19～28)
各都道府県の名義と位置について、形や文字に注目するトピックスを設けることで多様な方法で理解を助ける手立てがとられている。(P115)
世界における我が国の国土の位置、構成、領土の範囲を理解するために、日本全体の領土・領海の全体を示した地図を載せ、日本の端の経度や緯度などが示されている。また、日本の東西南北端の離島などが紹介され、北方領土のほか、尖閣諸島、竹島が「日本固有の領土」として記述されている。(P29～30)
我が国の国土の自然環境の特色を気候の側面から考えるため、冬と夏の気温と降水量の様子を色の違いで簡単に比較できるように、見開きのページで表されている。(P89～90)
我が国の歴史上の主な事象について、学習を行う際の学習課題解決のための資料として活用できるように提示されている。特に京都市や奈良市の遺跡や文化財について、位置やつながりがわかるよう、5万分の1地形図を用い、調べ学習がしやすいよう工夫されている。(P49～50)
出来事の経緯を示した年表とともに参照するページが設けられており、歴史上の事象をその場所に関連付けて調べやすいよう工夫されている。(P101～102)
- 日本で起きた自然災害について、写真や図を使って視覚的に捉えやすくするとともに、防災・減災に取り組む人々の努力を知り、防災の意識を高められるよう工夫されている。(P91～94)
防災マップの具体的な作り方を載せ、広域防災拠点や避難場所を示すことで防災意識を高め、自分たちの住む地域の防災について考え、話し合えるよう、工夫されている。(P47～48、P61～65)
- タイトルの横にある二次元コードを、タブレット・パソコンなどを使って読み取ると、学習内容を深められるデジタルコンテンツが使えるよう工夫されている。また、「地図マスターへの道」というコラムを設け、デジタル機器を使わなくても「プログラミング的思考」を養い、位置や空間的広がりなどの社会的な見方・考え方の育成につながるよう工夫されている。
- 「地図マスターへの道」と教師役のキャラクターの吹き出しを結びつけて学習することで、深い学びにつなげ、新たな問いを見つけ出したり、自らの生活を見つめなおしたりできるよう工夫されている。
- 国内の世界文化遺産の写真を載せたり、昔の国名がついている食べ物のイラスト及び日本の略年表を載せたりするなど、地域の伝統や歴史・文化に根ざした資源に目を向け、保護・活用につながるよう工夫されている。(P101～102)
- 第3学年において初めて地図にふれ、身近な地域や市区町村の地理的環境について学習を行う際、自ら必要な情報を得られるよう工夫されている。
地図の成り立ちから始まり、方位や地図記号、距離の求め方などについてそれぞれ見開きのページを用い、8ページにわたって説明している。また、児童が親しみをもって学習できるように、マンガを使った導入が行われている。(P7～14)

- 外国語活動、外国語科との関連を図ることができるよう、世界全図とともに14か国の挨拶と文字、民族衣装を身に付けたイラストが配されている。(P1~3) また、主な国名や都市名に英語表記が付記されており、その国を代表するものがイラストで描かれている。(P75~86)

算数科との関連を図ることができるよう、地図のページには縮尺を示すスケールバーが配され、実際の距離を求める計算をすることができるようになっている。

音楽科との関連を図ることができるよう、音楽と関連のある場所には音符の記号と曲名が表記されている。

2 使用上の便宜

- 「広く見わたす地図」→「都道府県を見る地図」→「世界を見る地図」と配列し、活用度の高い使用学年ごとに配慮されている。都市周辺の詳しい地方拡大図は、「都道府県を見る地図」の該当箇所に挿入されている。
- A4判、製本は、ページの落丁を防ぐための方法が用いられるとともに、背表紙も布で補強されるなど、4年間の使用に耐える丈夫な製本仕様となっている。折り込みページには、折り目部分の表面をコーティングして切れ落ちることがないように工夫されている。児童の身体的負担を軽減するために軽い用紙が使用されている。
- 見開き右ページの端には、地図の種別(日本の地方別地図、世界の州別地図など)ごとに色分けしたインデックスを設けて、探しやすくなるよう工夫されている。
- 色覚特性のある児童にも判別しやすいよう、「公園や緑地」「建物が密集しているところ」などには、色の下に紋様を入れている。(P31~72) 地図のタイトルは、定位置(左上)に固定され、レイアウトの統一がなされている。「手話で表す都道府県」のコーナーが設けられている。

重要な地名は太く大きくし、文字のまわりには縁取りをつけてある。また、とめ、はね、はらいが正確なフォントを使っている。

3 その他

- 巻末には、日本と世界の統計・グラフを設け、様々な学習場面と関連づけられるようにしてある。
- 索引の都道府県名・都道府県庁所在地名・国名を赤色文字、日本の歴史地名と世界の首都名を青色文字にして、見つけやすくしている。
- 児童の発達段階に配慮して、日本・世界ともに、3年生でも読み取りやすい世界地図、日本の都市圏図・地方図が設けられている。(P1~3、P20~28)